

# 広報 トピックス



〈郷土館ゴールデンウィークイベント〉

5月3日から5日までの3日間、郷土館ゆめつむぎでゴールデンウィークイベントが開催され、今ではほとんど家庭で見かけなくなった石炭ストーブに石炭をくべる体験や、そのストーブを使って作ったなんご鍋を試食するなど、参加した皆さんは楽しいひとときを過ごしていました。



〈フィットネススクール〉

フィットネススクールが、5月10日から公民館で始まりました。参加者の皆さんは、健康な身体づくりのためのストレッチや、ダイエット効果のある運動方法を教わり、こちよい汗を流しています。同スクールは毎週火曜日、6月28日まで行っていますので、市民の皆さん参加しましょう。



〈神威児童センター前花壇植栽〉

5月18日、神威児童センターで神威町内会ボランティアの皆さんと、子どもたちが一緒に、同児童センター前にある花壇に、色とりどりの花を植栽しました。



〈消防放水訓練〉

4月25日、公民館駐車場で、消防本部による住宅火災を想定した放水訓練が行われました。火災により屋上に残り残された方を救出するためのはしごを使った訓練や、屋上からの一斉放水など、本番さながらの緊張感の中で行われていました。



〈悪質商法追放パネル展〉

公民館ロビーで5月16日から、悪質商法追放パネル展が開かれました。市民の生活トラブルを防ぐためのパネル展で、訪れた皆さんは真剣なまなざしでパネルに見入っていました。

## 市民の ひろば



俳句

歌志内俳句会選

会員作品

横山 冬青  
被災地や皇后の手に黄水仙

須藤 涼子  
発熱は背に始まり一葉草

佐藤 清子  
しゃくなげの花芽に力ありにけり

高瀬 仁孝  
牧場より消えゆくサイロ独活の花

吉岡 ゆか  
四月尽鉢花咲けずまた落ちる

後藤 妙子  
ありし日の母の作りし柏餅

石塚 トキ  
客来れば茶の間客間に花一枝

岡部 康一  
いにしへの児島の櫻院の庄  
勝部 貞子  
空知川ひととき憩ひ雁帰る  
大沼 きみ  
子供の日靴の渦なす児童館

絵手紙

「行楽の季節」

小松 京子



「父の日」

藤原 ミツ



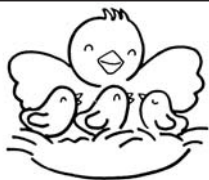
市民のひろばへの作品投稿は、広報情報グループ(☎42-3212)までご連絡ください。

ありがとうございます

ふるさと納税

▽佐々木 文彦さんから

# うちの子も げんきです



もりた とうり  
森田 桃李ちゃん  
とお母さん



神威桜ヶ岡

お父さん・健二さん お母さん・友紀さん  
長女(1歳3か月)  
お母さんのひとこと

少しきかないところがありますが、とても元気です。おかあさんといっしょのテレビが好きでよく見えています。大好きなお兄ちゃんに遊んでもらうと、とてもよろこんで笑います。いつまでも元気でたくましく、人に慕われる子どもに育ててほしいですね。



〈チロル学園 (高齢者大学)〉

5月12日、公民館で高齢者大学開講式が行われました。今年を受講生は36人。吉田教育長のユモアあふれるあいさつに笑みがこぼれ、これから仲間づくりの輪を育みながら、講話や実技を通して知識・教養などを深めていきます。

4月29日から5月8日まで、市内在住の画家、本城義雄さんが集めた柱時計など、生活骨董の数々を展示する大正館収蔵品展が開催されました。今回は「富山の葉売り(置葉)」を特集し、皆さんは懐かしそうに展示品を見つめていました。



〈大正館収蔵品展〉



〈郷土館10万人達成記念〉

5月15日、郷土館ゆめつむぎが開館13年目で、入館者10万人を達成しました。10万人目の節目となったのは、富良野市から来た森本さん。偶然郷土館の看板を目にし、来館されたそうで、「初めて入館したのに10万人目。こんな経験をしたことがないのでラッキーです」と、笑顔で語ってくれました。郷土館から、花束と石炭の飾り物が贈られました。



〈こもれびの杜記念館オープン〉

「こもれびの杜記念館」が、5月3日からオープンしました。館内には多くの書簡や書画、陶芸品が展示され、訪れた皆さんを楽しませていきます。



## 行事

### 移動どうわ会

- とき 6月10日(金) 15時
- ところ 神威児童センター
- 内容 本の読み聞かせ、紙しばい

### 移動としよかん

- とき 6月15日(水)
- ところ 文珠第二町内会館 (14時30分)
- とき 6月16日(木)
- ところ 楽生園 (14時30分)
- 給食センター (15時45分)
- ▽市民体育館 (16時15分)

### 読んでみませんか?

『天海の秘宝 上・下』 (夢枕 獏著)

からくり使い、天才剣士、凶盗一味、謎の辻斬り、不死身の犬、そして怪僧・天海が残したという秘宝。江戸を舞台に、物語のおもしろさを詰め込んだ伝奇長編。

『県庁おもてなし課』 (有川 浩著)

観光に力をいれるため、ある県庁におもてなし課が新設された。掛水史貴は、そこに配属された若手職員。さっそく観光特使制度をスタートさせ、地元出身の人気作家にも特使になってもらおうとお願いしたのだが…。いったい何がダメなのか。悩みつつも成長する掛水と地方観光の明日を描いた観光小説。

『マンガ建築考』 (森山高至 著)

漫画やアニメにでてくる建物を実際に建てるとしたらどうなるか? 建築家でもある著者が専門知識をいかしながらも楽しくわかりやすく語る異色のエッセイ。

『謎解きはディナーのあとで』 (東川篤哉著)

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 (岩崎夏海著)

『ばんば憑き』 (宮部みゆき著)  
『ジエノサイド』 (高野和明著)  
『カササギたちの四季』 (道尾秀介著)